

椋山女学園大家政 ○中保 淑子
椋山 藤子

1. 筆者らは、色調和の研究をつづけ、すでに Moon & Spencer の色調和理論について検討し、面積比と色調和との問題、および美度と面積効果との関連について報告した。

そこで今回は、各種の服飾における美しさの構成要因を美度より検討し、服飾上の色調和を解明したいと考えた。

2. 試料には、日本の染織物の主なものと考えられる正倉院染織裂、能装束、および小袖を用い、さらに市販布をも加えて、それぞれ配色数別に任意抽出した。

そして、美度算出式にもとづき、これらの美度を求め、色空間における配色調和、および配色数と美度の値との関係を分析し、服飾における配色状態の特長を究明した。

3. その結果、服飾の地色に対する配色傾向は、色相の関係では、かなり不調和帯が目立ち、明度・彩度の関係では調和帯の出現がみられ、美度は0.5以上の場合が比較的多い。

また、配色関係が調和帯の組合せが多い場合や、無彩色が使用された場合は美度が高く、配色数の増大にともなって、美度の値も増加する傾向が認められた。